

平成27年度 高知県立高知南中学校・高等学校

探究型学習

事例集

平成28年3月

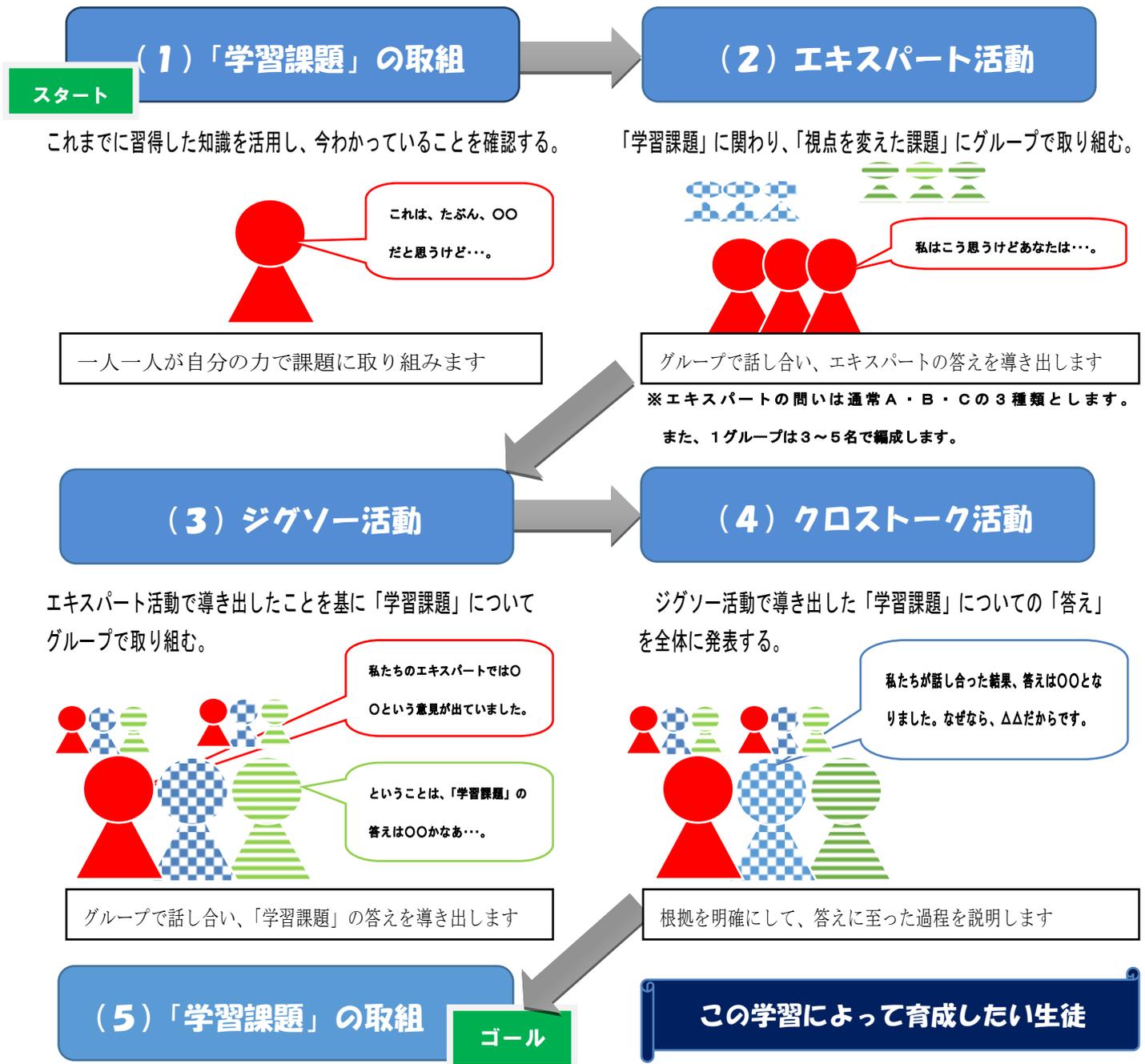
高知県教育センター

目次

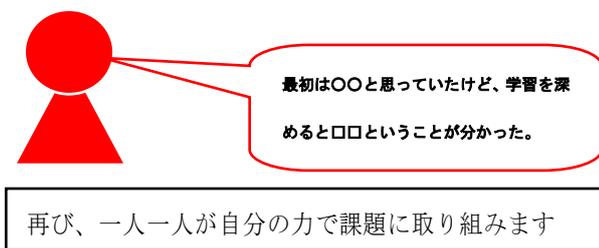
1. 知識構成型ジグソー法の授業	1
2. 知識構成型ジグソー法の授業事例	
① 「国語総合」『羅生門』	2
② 「現代社会」『ギリシア問題』	7
3. 高知南中高における「知識構成型ジグソー法」による授業の基本形	11
4. 「知識構成型ジグソー法」による授業を効果的に進めるために	13
5. 知識構成型ジグソー法の授業類型	17
6. 年間指導計画案	
① 国語総合	18
② 現代文B	21

知識構成型ジグソー法の授業

知識構成型ジグソー法の授業は生徒の協調学習を引き起こす手法の一つです。



これまでの学習を通して、「わかったこと」、「認識を新たにしたこと」などを踏まえ、「学習課題」に再び取り組む。



「主体的な学び」・「協働的な学び」・「深い学び」ができる生徒



知識構成型ジグソー法の授業事例①

- 1 科目 「国語総合」
- 2 単元名 小説(一)『羅生門』
- 3 対象 高校1年生
- 4 授業のねらい 小説に描かれている登場人物の様子や心情、情景の意味などを、話し合い学習を通して読み深める。
- 5 知識構成型ジグソー法の授業展開 **2時間設定**

—これまでの学習—
『羅生門』を通読し、登場人物の様子や、心情の変化について捉える。
特に、「下人」が心情を変化させた根拠について確認する。

知識構成型ジグソー法の授業

第1時

学習活動

指導のポイント

「学習課題」の取組(1回目)

個人学習

10分

前時の学習までにわかったことや知識を活用し、登場人物の様子や心情などを踏まえて読むと、小説には人間のどのような本質(真の姿)が描かれているのかを、自分なりに考え、書く。

内省



—学習課題—
小説「羅生門」には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか書く。

これまで学んだことを振り返り、登場人物の行動や発言の意味、また根拠になったことがどのようなことだったのかをよく考えさせる。



エキスパート活動

グループ学習

35分

学習課題で示されたことを解決するために、異なる視点で設定された「問い」について、グループでの話し合い学習を通して、一人一人が考えを持ち、深める。
この活動では、グループで考えた意見や答えを、次のジグソー活動で、一人一人が適切に伝える役割を持っていることを自覚し、話し合い活動に取り組む。

—エキスパートA—
文中、ニヶ所の表現に着目して、「下人」とはどのような人物なのかを話し合う。

下人が、状況に流されながら自分の心情を変化させたり、他者に対しての態度を変えていることなどに着目する。その姿を通して、下人の人物像を考えさせる。



—エキスパートB—
「下人」と「老婆」が出会ったことの意味について、文中の複数個所の表現を踏まえ話し合う。



下人が、自分に欠けていたことを老婆の話の聞くことによって補っている点に注目しながら、下人にとって老婆はどのような役割を果たしたのかを考えさせる。

—エキスパートC—
小説の結末の一文を、作者が書き換えた理由について話し合う。

ジグソー法学習 話し合いの手引き

【エキスパート活動での話し合い】

① それぞれはエキスパートの「見」に対する自分の意見を発表する。「これはみんなに共通しているね」「この人の意見は…が（どこか弱）おもしろくない」など、それぞれの意見を踏まえるように話し合う。

② エキスパートの「見」に対するグループの意見をまとめる。

例）私たちは、（ ）について話し合いました。私たちのグループとしての意見は（ ）です。その理由は（ ）からです。これによって（ ）ということが（も）考えられます。」「（全員同じことが書けるようになる。）」

登場人物の心情と、情景描写の関連を考えながら、表現効果と、作者がどのような意図を持って書き換えたのかを考えさせる。

生徒は「話し合いの手引き」を活用して話し合う。

ここまでの振り返り

個人学習

5分

内省

それぞれのエキスパート活動で話し合われたこと、自分が考えたことなどを整理し、次時のジグソー活動でどのように伝えるかをまとめる。また、本時の学習で自分自身がわかったこと、次の時間に取り組みたいことなどを考え、学習を振り返る。

第2時

前時の確認

グループ学習

5分

内省

前時のエキスパート活動で話し合われたことをジグソー活動で、他のメンバーに的確に伝えるため、エキスパートのグループで内容の確認を行う。一人一人が責任を持って、エキスパートの問いの内容と、話し合いの様子、得られた結論を伝えるように準備する。

ジグソー活動

グループ学習

20分

エキスパート活動A・B・C各グループが集まり、それぞれのグループで話し合ったことを順次報告する。その後、「学習課題」で提示された「課題」をグループで話し合い、グループとしての結論に導く。
ジグソー活動のグループで話し合ったことは、次のクロストーク活動で、全体へ適切に伝えなければならないことを自覚しながら、話し合いに取り組む。

—ジグソーの課題—

小説「羅生門」には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか、についてグループで話し合い、結論をまとめる。



それぞれのエキスパートはどのような「問い」であったか、またそれに対してどのような話し合いが行われ、どのような意見にまとまったのかをそれぞれに発表させる。その後、ジグソーの課題にグループとして取り組ませるが、その際、「登場人物の心情の変化とその根拠や情景の意味」を中心に話し合わせる。

クロストーク活動

グループ学習

15分

ジグソーのグループで話し合ったことを整理し、適切にまとめ、どのような話し合いが行われ、結論はどうなったのかを報告する。聞き手は、それぞれのグループの話し合いの様子や、結論をしっかりを聞き、自分の考え方と共通点や差異を考える。

—クロストークでの報告—

小説「羅生門」には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか、について各グループで話し合ったことを適切にまとめ、報告する。



他のグループと同じような話し合いがされていたとしても、その内容を報告させる。

単なる報告にならないように、「どうしてそのような話し合いになったのか」、「他にはどのような意見が出ていたのか」などについても適宜発表させる。(教員が適切促す。)

「学習課題」の取組(2回目)

個人学習

5分

内省

最初に自分が考えた「課題」に対する答えや認識を見つめ直し、「エキスパート活動」、「ジグソー活動」、「クロストーク活動」を通して、考えが変わった点や新たに気付いたことなどをまとめ、同じ課題に再度取り組む。

—学習課題—

小説「羅生門」には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか、再度書く。



登場人物の人物像や、情景の意味、作者の意図などについて改めて認識させながら、小説を読み深める。

内省

—今後の学習に向けて—

登場人物の心情や、情景を読み、その意味を考えることで、小説を読み深めることができることや、作者の表現の意図を考えることの大切さを確認する。

6 生徒の学習課題への取組(最初と最後の変容)

	授業の最初	授業の最後	評価
生徒A	まず、人間が正義を貫くか、非行に走るかという二つの対になる姿をかかげ、後に非行に走る姿が描かれている。	人間は、生と死の境に立たされると、「生きたい」という欲求から、善悪の判断がつかなくなり、悪いことをしてでも、自分は少しでも生きるという、人間の卑怯で自分の意見を持ち続けることができないという、みにくい本質が描かれていると思いました。	最初の表面的な読みから、登場人物の様子や心情をしっかりと読み込み、人間の本質について触れている。
生徒B	ずる賢く生きるためなら、周りを犠牲にしても生きようとする。	人間は弱さがあり、それが出してしまうと他人のことを考えられなくなってしまふ。自分には甘く、他人には厳しい。老婆の話を聞いて、安心感が生まれ、人間の卑怯でずる賢い本質が出てきた。	登場人物の行動や、そのきっかけとなったことの意味について考え、人間の本質に結び付けている。
生徒C	何かのきっかけで「いけないこと」とわかっているのに、自分の弱さで崩れてしまふ。	人間は、生と死の判断になると、法を犯すことでもしてしまうし、自分ひとりだけがやっているのではないことを聞くと、悪の道に走ってしまう。「自分」さえ良ければという意見を持つ自己中心的なもの。	最初の表面的な読みから、小説のさまざまな部分を読み深めることで、より具体的に心情や情景を考え、人間の本質を追求しようとしている。

7 生徒の振り返り

	そう思う	←	→	思わない
学習目標の「小説の読み深め」ができた。	50.0%	43.8%	3.1%	3.1%
エキスパート活動により、自分の考えを深めることができた。	59.4%	34.4%	0%	6.3%
ジグソー活動により、自分の考えを深めることができた。	61.3%	29.0%	6.5%	3.2%
クロストーク活動により、自分の考えを深めることができた。	67.7%	25.8%	3.2%	3.2%
あなたは、このような学習をどれくらいやりたいと思いますか。	とてもやりたい(毎日1時間くらい)			6.7%
	結構やりたい(週に1、2回くらい)			30.0%
	時にはやってもよい(月に1、2回くらい)			36.7%
	たまにはやってもよい(学期に1、2回くらい)			13.3%
	やりたくない			13.3%
今回のジグソー法の授業で、『羅生門』の「読み」が以前より深まったと思うことを書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ●以前は教科書の内容を理解するだけだったが、今回は内容理解に加え、より羅生門の内容、状況、下人の心情を深く考えることができた。 ●下人と老婆が互いに四苦八苦して生きていたことがわかりました。やり方や思うことはひどかったりするけど、それもこの時代の環境が生んだものなんだと二人の登場人物について知れたことが深まったと思いました。 ●前は状況しか考えて読んでいなかったが、「この文によって、こうなる」などさまざまなところから読み取れた。 ●なぜ老婆と下人が出会ったとか考えたこともなかったので、考えてみたら、下人の本質や気持ちを改めて読みとれたと思いました。下人の気持や行動を読み取ることで人間の本質にもつながっていくんだと思いました。 ●前より意見を出し合ったり、意見交換をすることによって、色々な考え方で物語を深く読んで行くことができると思った。 ●下人や老婆の行動や言動一つ一つを見て、どんなことを表しているか、考えるようになった。 ●前までは下人の心情や行動くらいしか考えてこなかったけど、今回は人間の本質や筆者の伝えたいことなど発展したところまで考えることができた。 			

『羅生門』について知識構成型ジグソー法の授業における「問い」ができあがるまで

	メインの問	エキスパートA	エキスパートB	エキスパートC
第1次案	羅生門を読んで、思ったこと感じたことを、登場人物の心情や描かれている情景に基づいて書いてください。	下人にとっての『勇気』とはどのような意味を持つものか話し合う。	下人にとっての『正義』と『悪』はどのようなものか話し合う。	作者は、この小説でなぜ『下人』と『老婆』を登場人物として描いたのか話し合う。
第2次案	羅生門を読んで、あなたが考える下人の人物像について、感じたことを書いてください。	下人にとって『正義』と『悪』はどのようなものか。	この小説中で、もっとも効果的に登場人物の心情に影響を与えたものは何か。また、それらはどのような影響を与えたか。	下人が盗人になった『本当の理由』は何か。
第3次案	作者が、結末の一文を『下人の行方は、誰も知らない』としたのはなぜか、その理由もあわせて書いてください。	それぞれの場面における下人の「勇気」とはどのようなものだったか話し合う。 ・門の下(明日の暮らしを考えていたとき) ・老婆の行為を見たとき ・老婆の言い訳を聞いたとき(それぞれの場面での「勇気」について、その意味と、どのような違いがあるかを踏まえ、下人の人物像に迫る。)	2) 次の表現が、この小説中でどのような効果をもたらしているか、話し合う。 ・「雨は、羅生門を包んで、遠くから、ざあっという音を集めてくる。夕間はしだいに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葺の先に、重たく薄暗い雲を支えている。」 ・「下人は、剥ぎ取った檜皮色の着物を脇に抱えて、またたく間に急なはしごを夜の底へ駆け下りた。」 ・「外には、ただ、黒洞々たる夜があるばかりである。」(登場人物の心情や行動にどのような影響を与えているか、また、小説の展開にどのような効果をもたらしているかなどを考える。)	3) 次の点を踏まえて、下人がそれぞれの場面でどのような状況に置かれていたかを深く考察し、話し合う。 ・「ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。」 ・「だから、『下人が雨やみを待っていた。』と言うよりも『雨に降りこめられた下人が、行き所がなくて、途方に暮れていた。』と言うほうが、適当である。」 ・(老婆の生死を支配していること意識し)「そうして、この意識は、今まで陰しく燃やしていた憎悪の心を、いつの間にか冷ましてしまった。あとに残ったのは、ただある仕事をして、それが円満に成就したときの、安らかな得意と満足とがあるばかりである。」
最終授業案	小説『羅生門』には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか考え、書いてください。	次の二か所の表現に着目して、「下人」とはどのような人物か話し合う。 ・「しかし下人にとっては、この雨の夜に、この羅生門の上で、死人の髪の毛を抜くということが、それだけですぐに許すべからざる悪であった。」 ・「しかし、これを聞いているうちに、下人の心には、ある勇気が生まれてきた。それは、さっき門の下で、この男には欠けていた勇気である。」(人物を考える際には、この二箇所以外の下人の言動も根拠にする。)	「下人」と「老婆」が出会ったことの意味について、次の点を踏まえながら、話し合う。 ・「その髪の毛が、一本ずつ抜けるに従って、下人の心からは、恐怖が少しずつ消えていった。そうして、それと同時に、この老婆に対する激しい憎悪が、少しずつ動いてきた。」 ・「これを見ると、下人は初めて明白に、この老婆の生死が、全然、自分の意志に支配されているということを意識した。」 ・「されば、今また、わしのしていたことも悪いとは思わぬぞよ。これとてもやはりせねば、飢え死にをするじゃや、しかたがなくなることじゃわいの。」(それぞれの場面において、下人と老婆は、お互いに対してどのような心情を持っていたらうか、また、特に下人は老婆に対してどのような思いをもったかを考える。)	「下人の行方は、誰も知らない。」という結末の一文については、「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつつあった。」から書き換えられたものであるが、そのようにした作者の意図について、次の夜に関わる表現の意味を考えながら、話し合う。 ・「夕間はしだいに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葺の先に、重たく薄暗い雲を支えている。」 ・「下人は、剥ぎ取った檜皮色の着物を脇に抱えて、またたく間に急なはしごを夜の底へ駆け下りた。」 ・「外には、ただ、黒洞々たる夜があるばかりである。」(下人の未来を具体的な姿から、あいまいな姿に変えた理由と、「誰も知らない。」という表現の効果や意味について考える。)

知識構成型ジグソー法の授業事例

- 1 科目 「現代社会」
- 2 単元名 「国際経済の動向と国際協力」(ギリシア問題)
- 3 対象 高校2年生
- 4 授業のねらい グローバル化した世界経済において、金融システムをめぐる問題について、ギリシア経済危機を題材として取り上げ、国際社会における経済の動向や経済の仕組みを多面的・多角的にとらえさせる。
- 5 知識構成型ジグソー法の授業展開

2時間設定

－これまでの学習－
国際経済の動向として、「ヨーロッパ統合の歩み」、「EUの仕組み」、「ユーロの仕組み」、「EU加盟のメリット・デメリット」について学んだうえで、ギリシア経済危機の経緯について理解する。

知識構成型ジグソー法の授業

第1時

学習活動

指導のポイント

「学習課題」の取組(1回目)

個人学習

10分

これまでの学習で得た知識や、日常生活の中で知り得た「ギリシアの経済危機」について、自分なりに考えたことを書く。



－学習課題－
ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアへの金融支援を実施することにしたのはなぜだろうか？

教科書には直接記載はされていない「時事的な事項」を取り上げることで社会の出来事に興味を持たせ、実際的で具体的に考えさせる。



エキスパート活動

グループ学習

35分

学習課題で示されたことを解決するために、異なる視点で設定された「問い」について、グループでの話し合い学習を通じて、一人一人が考えを持ち、深める学習。
この活動では、グループで考えた意見や答えを、次のジグソー活動で、一人一人が適切に伝える役割を持っていることを自覚し、話し合いに取り組む。

－エキスパートA－
一般的にはデフォルトすると通貨の価値が下落するが、通貨の価値が下落するとどうなるのか？

通貨の価値が下落することで、輸入には不利になる一方、輸出については有利になる、というアルゼンチンの例がギリシアの場合にあてはまるのかを考えさせる。



ーエキスパートBー
一般的にはデフォルトするとインフレーションが起きるが、インフレーションになるとどうなるのか？



インフレーションの原因について考えさせる。また、通貨の価値の下落と輸出入の関係について、市民生活への影響とあわせて具体的に考えさせる。

ーエキスパートCー
一般的にはデフォルトが心配されると国債価格が下落(国債金利が上昇)するが、国債価格が下落(上昇)するとどうなるのか？

ギリシアの国債価格の下落が、国債を保有する他国やギリシア国内経済にどのような影響をあたえるのかを考えさせる。

ここまでの振り返り

個人学習

5分

内省

それぞれのエキスパート活動で話し合われたこと、自分が考えたことなどを整理し、次時のジグソー活動でどのように伝えるのかをまとめる。また、本時の学習で自分自身がわかったことなどを考え、学習を振り返る。

第2時

前時の確認

グループ学習

5分

内省

前時のエキスパート活動で話し合われたことをジグソー活動で、他のメンバーに的確に伝えるため、エキスパートのグループで内容の確認を行う。一人一人が責任を持って、エキスパートの問いの内容と、得られた結論を伝えるように準備する。

ジグソー活動

グループ学習

20分

エキスパート活動A・B・Cの各グループから集まったメンバーが、それぞれのグループで話し合ったことを順次報告する。その後、「学習課題」で提示された「課題」をグループで話し合い、グループとしての結論を導く。
ジグソー活動のグループで話し合ったことは、次のクロストーク活動で全体へ適切に伝えなければならないことを自覚しながら、話し合いに取り組む。

ージグソーの課題ー
ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアへの金融支援を実施することにしたのはなぜだろうか？



各自のエキスパート活動で得られた知識を活用しながら、結論を導く際の理由や根拠を考えさせる。

クロストーク活動

グループ学習

15分

ジグソーのグループで話し合ったことを整理し、適切にまとめ、結論はどうなったかを、理由や根拠を示しながら報告する。
聞き手は、それぞれのグループの結論及びその理由や根拠をしっかりを聞き、自分の考え方や共通点や差異を考える。

—クロストークでの報告—
ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアへの金融支援を実施することにしたのはなぜか？について各グループで話し合ったことを適切にまとめ、報告する。



発表の際は、その結論に至った理由や根拠を明確に述べるように注意を促す。

「学習課題」の取組(2回目)

個人学習

10分

内省

最初に自分が考えた「課題」に対する答えや認識を見つめ直し、「エキスパート活動」、「ジグソー活動」、「クロストーク活動」を通じて、考えが変わった点や新たに気付いたことなどを加味し、同じ課題に再度取り組む。

—学習課題—
ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアへの金融支援を実施することにしたのはなぜだろうか？再度書く。



要点を整理し、箇条書きや、図示しながら説明することも可とする。
結論に至っていないくても、途中までの結論や過程を記述させる。

内省

—今後の学習に向けて—
「ギリシア問題」が一国の経済問題ではなく、EUを含め、他国へ影響する問題であることを確認する。また、日本の財政状況にも目を向け、将来的には日本にも起こりうる可能性を持った経済問題であることを踏まえ、どのような政策が必要になるかを考えるきっかけとする。

6 生徒の学習課題への取組(最初と最後の変容)

	授業の最初	授業の最後	評価
生徒A	利害の一致？	もしユーロが停止し、ドラクマしか使えなくなった場合、ギリシアはインフレになり、国民の生活が苦しくなる。このことから緊縮策を受け入れた。EUはギリシアからの借金を返済してもらえなくなることを恐れた。そしてユーロの流れが悪くなるのを防ぐために金融支援策をすることに決定した。	エキスパートの資料をしっかりと読み込んだこと、エキスパートやジグソーの各グループにおいて話し合われた様々な情報を整理することで、経済に関する一定の知識を身に付けている。
生徒B	ギリシアは緊縮策しか方法がないと思い、受け入れるしかなかったから。EUはギリシアが支援しないと危ないと思い、支援した。	①ドラクマを使うと、物が高くなり、ドラクマの価値が下がる。→インフレへ。しかし、輸入品だから値段は下げられないから、物を買うことができなくなり、売る側も、失業が増えてしまい、財政が悪化する。受け入れると、普通の値段で輸入することができ、原油などが買え、いろいろと生産ができる。よって緊縮策を受け入れた。 ②国債が下落しているうちに協力して貸してあげると、利子が多く返ってくる。よってEUは支援した。	課題に対して、当初は、的確な理解がされておらず、漠然とした認識でしかなかったが、情報を整理する中で、論理的な思考ができるようになり、自分なりの結論を導き出すことができた。 解答方法も、箇条書きの形で整理して書かれていることで、知識の整理が行われている。
生徒C	ギリシアは金融支援がないと財政の立て直しはできないし、ギリシアのような国が悪影響を及ぼす？からだと思う。	〔緊縮策を受け入れた理由〕 ☆国民の6割からの反対もあったが… ・ユーロを使える→自国通貨ドラクマではインフレの危険。輸入する商品の値段が上がると、国内の財政が冷えこむ。→失業者も増える。 ・融資を受けられる→ギリシアの経済は、「輸入品目1位が原油、輸出品目1位が石油製品」であることから石油を輸入するお金がないと回らない。 →長期的に見て、国内の状況を改善し、一人立ちできるように。 〔EUが金融支援を実施することにした理由〕 ・国債価格が低いうちに貸しておけば、利子が増え自国の利益になるから ・たくさんの借金を持ったままギリシアがEUから離脱すると、損になるから。 →EU諸国の利益のため。	課題に対して、当初は理解や認識が浅く、不十分な解答しか書けなかったが、エキスパートの資料をしっかりと読み込み、自分なりに情報を整理したうえで、ジグソーにおいてさらに考えを深めることができた結果、自分なりに考えをまとめ、論理的に答えを導き出そうとしている。 解答方法も工夫し、論理的に答えようとしている。

7 生徒の振り返り

	そう思う	←	→	思わない
学習目標の「市場経済の仕組みや課題について理解」ができた。	54.8%	41.9%	3.2%	0.0%
「課題」について、自分なりに考え、現時点での自分の意見を書くことができた。	67.7%	29.9%	0.0%	3.2%
話し合いをすることにより、自分の考えを深めることができた。	83.9%	16.1%	0.0%	0.0%
あなたは、このような学習をどれくらいやりたいと思いますか。	とてもやりたい(毎日1時間くらい)			6.5%
	結構やりたい(週に1、2回くらい)			19.4%
	時にはやってもよい(月に1、2回くらい)			45.2%
	たまにはやってもよい(学期に1、2回くらい)			25.8%
	やりたくない			3.2%
話し合いの活動の中で友だちの意見や発言から新たなことに気づいたり、考えを深めたりしたことを書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ●「インフレーション」や「国債」のことについて、別の視点からの意見を聞いて、自分の考えに変化があった。 ●それぞれのグループが違う視点で(ユーロの流れ、輸入、輸出、借金など)考えていて、そういう見方もあるのかと発見ができた。 ●自分とは違う視点の意見が出て、さらに問題を考えることができました。 ●最初は全然分からず、適当に書いたけど、話し合っていたら、どんどん考えが浮かんできた。 			
この授業で「気づいたこと」「わかったこと」「思ったこと」等があれば、簡単に書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ●他の人に伝えないと、と思ったら、エキスパートグループでの活動にも身が入って、よいと思う。また、今回はエキスパートグループの中でも意見が違ったりして、話し合いが休み時間も続き、「勉強」している感じがあった。(ただ黒板のコピーをするだけでなく) ●分からないと全員が言いながらも、集まって話をする中で、結論に近づいていく感覚がとても楽しかった。 ●A・B・Cに分けてやったことで、違う考えがわかり、それを踏まえた結論を出すことができました。以前と比べて、EUの働きが分かりました。 			

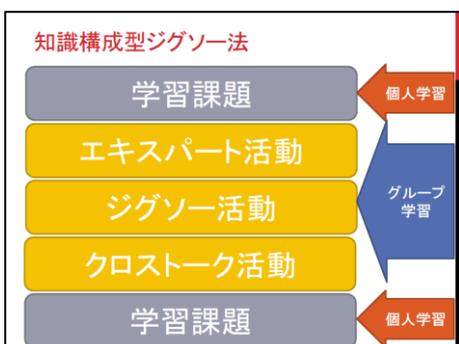
高知南中高における

「知識構成型ジグソー法」による授業の基本形

※「知識構成型ジグソー法」・・・「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（COREF）」が推奨する協調学習を引き起こす授業の方法の一つ。

「知識構成型ジグソー法」は、学習者が当該教科において取り組むべき課題を解決するために、個人学習とグループ学習を通して、これまでに習得した知識や技能を効果的に活用しながら、しっかり考え、適切に表現する学習を積み重ね、一人一人が理解や認識を深める学習です。

(1) =====

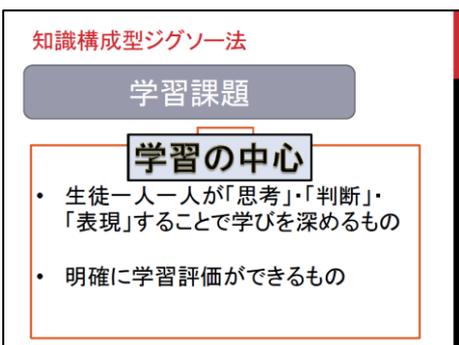


学習の流れは、基本的に左図の5段階を設定します。この学習過程を1単位時間で行う場合もあれば、複数の時間で分けて行う場合もあります。

「エキスパート活動」における「問い」は基本的に三つとします。

グループの人数は、「エキスパート活動」は1グループ3～5名。「ジグソー活動」は1グループ3～4名とします。（「ジグソー活動」の1グループあたりの人数は、「エキスパート活動」の課題数により変動します。）

(2) =====



各教科のねらいや付けたい力を明確にし、中心となる問い（学習課題）を設定します。

課題設定のポイントは、生徒一人一人の「思考力」「判断力」「表現力」を伸ばすようにし、生徒も授業者も、学習の結果を明確に評価できるようにすることです。

まず、学習課題について自分の考えを書きます。生徒は、これまで自分が習得してきた知識や技能を自分なりに使いながら取り組みます。

その際、「学習課題」で考えるべきこと（「答え」）の見通しを持ったり、現時点で「何が分かっているか（何がわかっていないか）」を認識することがポイントであり、決して「結論」を最初から求めるものではないことから、長時間、課題に取り組ませることがないよう気をつけます。

(3) =====

知識構成型ジグソー法

エキスパート活動

課題に関連する「問」をグループで考える活動

- 課題を解決するために必要となる「三つの部品」

「学習課題」を解決するための「部品」として、異なる視点で「問い」を3つ設定し、グループごとに与えられた「問い」について考える学習を「エキスパート活動」と言います。

それぞれのグループは、与えられた「問い」に対して、資料やこれまでの知識を活用しながら「解」を話し合って考えます。

(4) =====

知識構成型ジグソー法

ジグソー活動

学習課題をグループで考え、解決する活動

- エキスパートで話し合った内容を各グループで共有し、それぞれで課題を解決する

「エキスパート活動」で考えたそれぞれのグループでの答えを持ち寄り、「学習課題」について、グループで話し合い、考える学習を「ジグソー活動」と言います。

「ジグソー活動」では、最初にそれぞれのエキスパートグループの「問い」や話し合ったこと、そして得られた結論などを順番に報告し、それらの内容を踏まえて、「学習課題」に対する「解」を話し合っ

(5) =====

知識構成型ジグソー法

クロストーク活動

各ジグソー活動の内容を全体で共有する活動

- ジグソーで話し合った内容を全体に発表し、共有する

「ジグソー活動」で練り上げたグループの「解」や考え方を、全体で共有する学習を「クロストーク活動」と言います。

「ジグソー活動」での話し合いの過程や、その結果どのような結論に至ったかを、各グループの代表者が簡潔に全体発表します。

それぞれの発表を聞きながら、自分たちのグループとの共通点や相違点を考え、それまで気付かなかったことに気付いたり、認識を新たにしたりします。

(6) =====

知識構成型ジグソー法

学習課題

学習の中心

- 生徒一人一人が「思考」・「判断」・「表現」することで学びを深めるもの
- 明確に学習評価ができるもの

「エキスパート活動」、「ジグソー活動」、「クロストーク活動」を経た後、再び、個人学習として、最初に考えた「学習課題」に取り組みます。このとき考えた自分の理解や認識が、この学習を通して、どのように変容したかを把握できるようにします。

また、自分の学習についての振り返りを行うことで、どのようなことを身に付けることができたのかを認識することができます。

「知識構成型ジグソー法」による授業を効果的に進めるために

1. 「知識構成型ジグソー法」による授業づくりの目的

生徒の主体的・協働的な学びを通して、これまでに習得した知識を活用させることで、新たな気付きや深い思考を促し、思考力・判断力・表現力等を養いながら、自ら設定した課題を解決する力を育てるために取り組む。

2. 「知識構成型ジグソー法」の授業づくり

(1) 年間指導計画の作成

「知識構成型ジグソー法」による授業が、単なる投げ込みにならないよう、年間の授業計画における位置づけを明確にする。また、「知識構成型ジグソー法」の授業で得たことを、次の学習にどのようにつなげるかを意識する。

(2) 単元計画の作成

「知識構成型ジグソー法」で行う授業を含めた単元全体の計画を立てる。単元計画は年間指導計画に基づき、学習の系統性を踏まえながら立案する。その際、単元の中で「知識構成型ジグソー法」で授業を行う効果や必然性などを考慮する。

(3) 身に付けさせたい力の明確化

教科や科目の目標に従い、この単元でどのような力を生徒に身に付けさせるのかを明確にする。また、言語活動例を考える中で、「知識構成型ジグソー法」で取り組むことの効果や必然性を検討する。

(4) 学習指導要領の指導事項の確認

単元全体や、「知識構成型ジグソー法」で取り組む授業の内容について、学習指導要領の指導事項を確認し、目標と内容が離れないようにする。学習指導案を作成する場合は、指導事項を明記する。

(5) 評価規準の作成

生徒に身に付けさせることについて、あいまいな評価とならないよう、学習指導要領に基づき、また「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に、評価規準を作成する。

(6) 学習目標の設定

単元で身に付けさせたい力を具体的にしたものを学習目標として設定する。授業の際には生徒に明示する。

(7) これまでの学習の確認

生徒一人一人がこれまでの学びの中で何を知識として得ているか。そして、さらに確かな学力とするためにどのようなことが足りないかを見取る。

※生徒に確認したいこと

- ① これまでの学びを振り返り、自分が学ぶべきことについて、どのようなことをどこまで理解しているか、また不十分なところは何か、さらに、もっとどのようなことを知りたいか（学びたいか）を確認させる。さらに、自分の知りたいこと（学びたいこと）は、どうすれば学ぶことができるかを自分なりに考えさせる。
- ② 「知識構成型ジグソー法」で学ぶ単元にかかわり、自分の学習計画を考える。自分の学習の見通しを自分で立てる。（必要なことを家庭学習などで取り組む）
- ③ 生徒同士の話し合いにより、一人一人が新たな気付きを得ることや、深く思考する機会を保障するために、生徒同士の協働的な学習スタイルを確立させておく。

(8) 教材の準備

ワークシートや評価表、または一人一人が自分の学習過程を客観的に振り返ることができる教材づくりを工夫する。さらに、生徒がスムーズに学習に向かえるように、画像や動画などのビジュアル教材を効果的に活用する。

(9) 「学習課題」の設定

設定した学習目標を基に、生徒が授業で具体的に取り組む（考える）べき「学習課題」を設定する。「学習課題」は、生徒がこれまでの学習で得ている知識をベースに、それらの知識を活用して取り組むようにする。

(10) エキスパート資料の作成

「学習課題」を最終到達点とし、その解決に迫るための「異なる視点」での問いを複数（通常は3種類）設定する。その際、それぞれの課題の整合性（ジグソー活動において）や難易度のバランス等に配慮する。

* 授業事例より *

高校2年生「現代社会」（ギリシア問題）

①

知識構成型ジグソー法の授業について

【紹介事例】
高校2年生 現代社会 「ギリシア問題」



【目標】
ギリシア問題を題材に、市場経済の仕組みや課題について理解する。

【学習指導要領】「公民」
(2)オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

- ・ グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向
- ・ 経済における相互依存性の深まり、地域的経済統合

学習指導要領の指導事項に基づき「目標」（学習目標）を設定する。

②

知識構成型ジグソー法の授業について

【事例紹介】
高校2年生 現代社会 「ギリシア問題」



【学習課題】
ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアの金融支援を実施することにしたのはなぜだろうか？

- ・ 時事的な課題
- ・ 生徒の日常間から距離がある課題
- ・ 教科書には直接掲載されていない課題
- ・ 発展学習的な課題…

「学習目標」を達成させるために、生徒が具体的に取り組む「学習課題」を設定する。

知識構成型ジグソー法の授業について 3

エキスパート活動

グループ学習

エキスパートA

エキスパートB

エキスパートC

一般的にはデフォルトすると通貨の価値が下落するが、**通貨の価値**が下落するとどうなるのか？

一般的にはデフォルトするとインフレーションが起きるが、**インフレーション**になるとどうなるのか？

一般的にはデフォルトが心配されると**国債価格**が下落（国債金利が上昇）するが、国債価格が下落（国債金利が上昇）するとどうなるのか？

それぞれの課題をグループで話し合い、考えよう。

「学習課題」を解決するために、違った視点で取り組む「エキスパートの問い」を設定する際、それぞれの問いを考えるキーワードを設定する。

「エキスパートの問い」については、本時に至るまでの学習で身に付けた知識を活用し、それぞれの問いに取り組む。

第2部

※「現代社会」教科書 目次

4

現代の社会と人間

3 現代の経済社会と国民生活

第1章 現代の経済社会

- 1 経済社会の変 エキスパートABC
- 2 市場のしくみ エキスパートB
- 3 現代の企業 エキスパートC
- 4 国民所得 エキスパートC
- 5 経済成長と国 エキスパートC
- 6 金融の役割 エキスパートC
- 7 日本銀行の役割
- 8 財政の役割と租税
- 9 日本の財政の課題

4 国際社会と人類の課題

第2章 国際経済の動向と国際協力

- 1 貿易と国際収支 エキスパートC
- 2 外国為替市場のしくみ エキスパートA・B
- 3 第二次世界大戦後の国際経済
- 4 **こんにちの国際経済**
- 5 発展途上国の諸問題
- 6 経済協力と日本の役割

本時

(11) 話し合いの手引きの作成

話し合い学習が円滑に行えるように、エキスパート活動やジグソー活動において、生徒が「どのようなこと」を「どのように」話し合えばよいのかの例を示した掲示物やワークシート等を用意する。

(12) 振り返りシートの作成

授業の中で、どのようなことを考え、どのようなことが分かったか、またはまだ不明なことは何か、等について生徒一人一人が振り返るようにする。単なる自己評価ではなく、自分の学習状況を客観的に見つめ直し、次の学習までに必要なことや、今後どう学んでいくかということも考えさせる。

3. 「知識構成型ジグソー法」の授業時における留意点

(1) 授業の目的

単なる話し合いを行うのではなく、あくまでも一人一人の学習に対する理解や認識を深めるために実施することを伝える。そのために、自分が思ったことや考えたことを適切に伝えること、他者が言おうとしていることを考えながら聞くことの重要性等を理解させる。

(2) 主体的な学習

生徒一人一人の主体的な学習であることを確認する。必要最小限の説明や指示以外は、教員は基本的に全体への発言は控える。ただし、学習が停滞しているグループや個人については、必要に応じて支援を行う。その際に、予めヒントカード等を準備し、適切に活用する。

(3) 話し合いの時間

予め指定した話し合い時間を基本的に順守する。ただし、生徒の学習状況から、多少の変更をすることもありますが、その際は、生徒の合意を得ることや、変更時間の提案を生徒自らにさせる。

(4) 学習の記録

自分が考えたことや、グループでの話し合いの内容について、必ずメモを残すようにする。目的は、単なる記録メモではなく、学習を振り返るときの材料としたり、さらに学習の内容を深めるために必要なものであることを確認させる。

(5) クロストークでの教員の役割

原則的に、グループでの話し合いについて代表者に発表させるが、発表の内容については、必要に応じて教員が補足をしたり、表現を変えたりする。ただし、生徒が表現したい内容を尊重し、教員の解釈などを加えたりはしない。

(6) 学習課題への取組

「知識構成型ジグソー法」は、あくまでも生徒一人一人の学びを深める学習であり、グループでの話し合いで学習を終了させないようにする。その意味でエキスパートの前とクロストークの後の「学習課題」には、それぞれ必ず取り組ませる。

※「学習課題」や「エキスパートの問い」をどう設定するかは、知識構成型ジグソー法の授業づくりにおいて、重要である。生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成し、より「深い学び」とするための「問い」の設定のヒントとして、次の項目を掲げる。(平成27年度 高知県グローバル教育推進委員会における坪谷ニューエル郁子氏の発言から)

参考：〈質問の角度〉

- 1) 形式：それはどのようなものか？
- 2) 機能：それはどのような機能（役割）になっているか？
- 3) 要因：それはどうしてそうなったのか？
- 4) 変化：それはどのように変わってきているか？
- 5) 結びつき：それは、他とどうつながっているか？
- 6) 観点：どういう考え方（ものの見方）があるか？
- 7) 責任：私（達）がしなければならないことは何か？
- 8) 振り返り：どうだったか？これからどうすればよいのか？

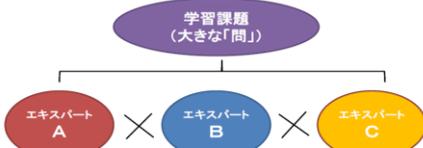
知識構成型ジグソー法の授業類型

平成27年度に高知南中高で取り組んだ知識構成型ジグソー法の授業（以下ジグソー法）研究を進める中で、ジグソー法の授業では、「学習課題（ジグソーの問い）」と「エキスパートの問い」を設定するにあたって大きく二つの類型に分類できると考えています。以下に、その概要を示します。

ブロック型ジグソー

「学習課題」の解決のために「エキスパートの問い」すべてが必要となるパターン

・エキスパートの「問」の設定
「問」の答えが「A」、「B」、「C」の要素すべてが必要なもの



〔具体的事例〕

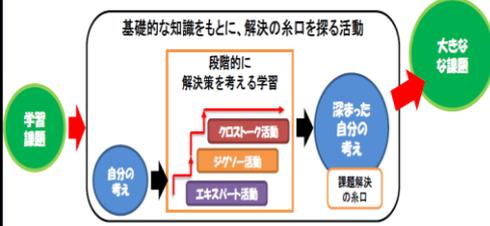
高校2年生 現代社会

「ギリシア問題」

「ギリシアがEUの要求した緊縮策を受け入れ、EUがギリシアへの金融支援を実施することにしたのはなぜだろうか？」

ポイント

時事的な内容について考えるうえで、経済の基本的な知識を活用しながら問題の本質や解決の方向性を具体的に考えることで、学びを深めること。



一般的にはデフォルトすると通貨の価値が下落するが、通貨の価値が下落するとどうなるのか？

一般的にはデフォルトするとインフレーションが起きるが、インフレーションになるとどうなるのか？

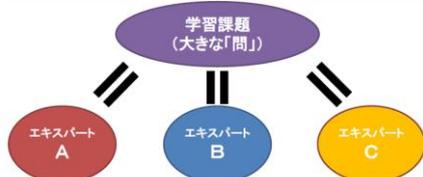
一般的にはデフォルトが心配されると国債価格が下落（国債金利が上昇）するが、国債価格が下落（国債金利が上昇）するとどうなるのか？

コモン型ジグソー

各「エキスパートの課題」を貫く共通性があり、それぞれの「エキスパートの課題」でも「学習課題」の解決に迫ることができるパターン。

・エキスパートの「問」の設定

それぞれが単独でも「学習課題」に迫る「問」



〔具体的事例〕

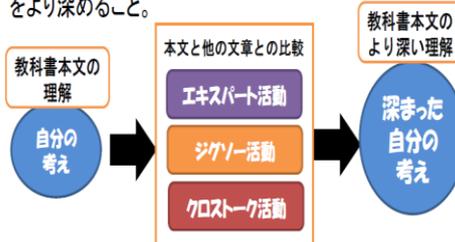
高校2年生 現代文B

評論「日本人の「顔」」

（教科書本文を読んで）「日本人の『顔』」とは何か考える

ポイント

既習の評論文の内容について、他の文章も参考にすることにより、教科書本文の内容を深く理解し、自分の考えをより深めること。



日本人の「個性」ということについて、教科書の文と、「文章A」の両方を読んで考える。

日本人の「他者との関わり方の特性」ということについて、教科書の文と、「文章B」の両方を読んで考える。

日本人の「集団における態度や行動」ということについて、教科書の文と、「文章C」の両方を読んで考える。

「日本人」とはどのような特性（＝顔）があるのか

(探究型学習) 年間指導計画案

科目名: 国語総合

学年: 高校1年生〔普通科・国際科〕

探究型学習で目指すこと:

(例) 日常の授業の中で獲得した国語に関する知識や能力を、他者との協働的な学習活動を通じてより確かなものにし、さらに活用する能力を磨くことで、思考力・判断力・表現力を伸長させ、より主体的な態度を身に付け、自ら課題を設定し、その解決に向けて取り組むようにする。

学期	単元名	主な指導事項	学習内容等
一学期	〔現代文編〕 評論(一) 「絵はすべての人の創るもの」	C(1)エ	◆ 文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫る。
	小説(一) 「羅生門」	C(1)ウ	◆ 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしようとする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「知識構成型ジグソー法」 本文を通読後、単元のまとめとして、登場人物の心情や、情景の意味について、より読みを深める。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 【学習課題例】 「小説『羅生門』には、人間のどのような本質(真の姿)が描かれているか考える。」 【エキスパートの間例】 A 「二か所の表現に着目して『下人』とはどのような人物か話し合う。」 B 「『下人』と『老婆』が出会ったことの意味について、三か所の表現を踏まえながら話し合う。」 C 「『下人の行方は誰も知らない。』という結末の一文について、作者が書き換えた意図について、夜に関わる表現の意味を考えながら話し合う。」 </div>		
	詩 「萱のうへ」他	C(1)ア	◆ 詩を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読む。
	〔古典編〕 古文入門 「宇治拾遺物語」(児のそら寝・絵仏師良秀)	事ア(ア)	◆ 伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気付く。
	物語を楽しむ 「竹取物語」	C(1)ウ	◆ 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深める。
	漢文入門 (訓読に親しむ)	事ア(ア)	◆ 伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気付く。
	〔表現の実践〕 「スピーチをする」	A(1)ア	◆ 自分の考えが、根拠から妥当な論理の展開で導き出されていることを相手に分かりやすく示す。
	〔現代文編〕 評論(二) 「水の東西」	C(1)イ	◆ 語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取る。
	小説(二) 「夢十夜」	C(1)オ	◆ 様々な本や文章を読み、人間、社会、自然などについて、自分なりの考えを形成する。

随想 「『映像体験』の現在」	C(1)エ	◆ 文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫る。
〔古典編〕		
物語を楽しむ 「伊勢物語」（芥川・筒井筒）	C(1)ウ	◆ 人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付く。
随筆を読む 「徒然草」（丹波に出雲といふ所あり）	C(1)ア 事ア (ア)	◆ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「知識構成型ジグソー法」 本文を古文と現代語訳で通読後、単元のまとめとして、登場人物の様子ややりとりについて、そのおもしろさを考え、読み味わうために行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【学習課題例】 「『丹波に出雲といふ所あり』の「おもしろさ」はどのようなところですか。」 【エキスパートの問例】 A 「上人の人物像（性格や人柄など）について話し合う。」 B 「上人が獅子・狛犬の立ち方に感動した理由について話し合う。」 C 「上人がなぜ思い違いをしたのかについて話し合う。」</p> </div>		
故事成語 「戦国策」（漁夫之利・狐借虎威）	事ア(ア)	◆ 伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気付く。
唐詩の世界 （静夜思・春望 他）	C(1)ウ	◆ 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付く。
〔表現の実践〕		
「話し合いをする」	A(1)ウ	◆ 話し合うことの目的が、合意を形成したり思考の深化を図ったりすることであることを認識する。
〔現代文編〕		
評論（三） 「グローバリズムの『遠近感』」	C(1)エ	◆ 文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察する。
小説（三） 「城の崎にて」	C(1)ウ	◆ 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付く。
短歌と俳句 「その子二十」 「こころの帆」	C(1)ア	◆ 短歌や俳句を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読む。
〔古典編〕		
日記を読む 「土佐日記」（門出・亡児）	C(1)ウ	◆ 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとする。

<p>和歌（と俳諧） 「万葉集」 「古今和歌集」 「新古今和歌集」</p>	<p>C(1)ウ</p>	<p>◆ 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとする。</p>
<p>中国の思想 「論語」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「知識構成型ジグソー法」 漢文を訓読し、内容を把握した後、単元のまとめとして、それぞれの章句に描かれている孔子の思想と、現代人の考えや行動などとの共通点や相違点等について考え、読み深めるために行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題例】 「『論語』に描かれている孔子の思想と現代の私たちの考えや行動とのつながりについて考える」 【エキスパートの問例】 A 「『学問』の章句を読んで、人は何のために学ぶのか話し合う。」 B 「『仁』の章句を読んで、人にはなぜ『仁』の考えが必要なのか考える。」 C 「『政治』の章句を読んで、望ましいリーダーの姿について考える。」</p> </div>	<p>C(1)エ</p>	<p>◆ 文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫る。</p>
<p>〔表現の実践〕</p>		
<p>「意見を述べる」</p>	<p>B(1)イ</p>	<p>◆ 「現状認識－問題提起－解決－結論－展望」など、文章の組み立てや進め方を工夫して書く。</p>

(探究型学習) 年間指導計画案

科目名: 現代文B

学年: 高校2年生〔普通科・国際科〕

探究型学習で目指すこと:

(例) 日常の授業の中で獲得した国語に関する知識や能力を、他者との協働的な学習活動を通じてより確かなものにし、さらに活用する能力を磨くことで、思考力・判断力・表現力を伸長させ、より主体的な態度を身に付け、自ら課題を設定し、その解決に向けて取り組むようにする。

学期	単元名 学習内容	主な 指導事項	探究型学習の例
一 学 期	評論 (一) 「『美しい』を探す旅に出よう」	(1)ア	◆文章の組み立てや骨組みを的確に捉える。
	小説 (一) 「山月記」	(1)イ	◆人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付く。
	評論 (二) 「歳時記について」	(1)オ	◆相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機とする。
	詩 「わたしが一番きれいだったとき」他	(1)イ	◆人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付く。

二 学 期	評論 (二) 「日本人の『顔』」 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">「知識構成型ジグソー法」</p> <p>本文を通読後、単元のまとめとして、日本人や欧米人の他者や社会とのかかわり方についての文章を比較して読み、自分の考えを深める。</p> </div>	(1)ウ	◆文章を読んで、人間、社会などについて考えを深め、自分の考えを形成する。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題例】 「日本人の『顔』とは何か、考える。」</p> <p>【エキスパートの間例】 A 「教科書の文中にある『日本人は、結局、所属集団から距離を置いて、一人の個人として振舞うことが難しい。』という考えと、【文章A】の文中にある、『個性』についての考えを比較して、『日本人の個性』について考え、話し合う。」 B 「教科書の文中にある『個人主義の欧米の社会では、自分の面子だけを心配していればよいが、日本人はそうはいかない』という考えと、【文章B】の文中にある、『(日本人の)あいまいなことば』は『ていねいな心づかい(の表れ)』という考えを比較して、『日本人の他者との関わり方の特性』について考え、話し合う。」 C 「教科書の文中にある『世間の目』が、『恥』という不快な感情をベースにして日本人の行動をある意味で規制している』という考えと、【文章C】の文中にある『若者ルールにシフトしていく』ことは『意外にむずかしい』という意見を比較して、『日本人の「集団」における態度や行動の違い』について考え、話し合う。」</p> </div>		

	小説（二） 「ころ」	(1)イ	◆ 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深める。
	評論（四） 「メディアの豊かさ」	(1)ア	◆ 語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取る。
	言語活動 創作の楽しみ・短歌と俳句	(1)オ	◆ 表現の仕方についての評価を通して得たことを、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くことに生かす。

三 学 期	評論（五） 「動的平衡」	(1)ア	◆ 目的に応じて、文章全体をまとめる。
	小説（三） 「骰子の七の目」	(1)イ	◆ 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとする。
	評論（六） 「『グローバル化』の中の異文化理解」	(1)ア	◆ 語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取る。